

# ブルーギルの効果的捕獲方法の検討

井出 充彦

## ◆背景・目的

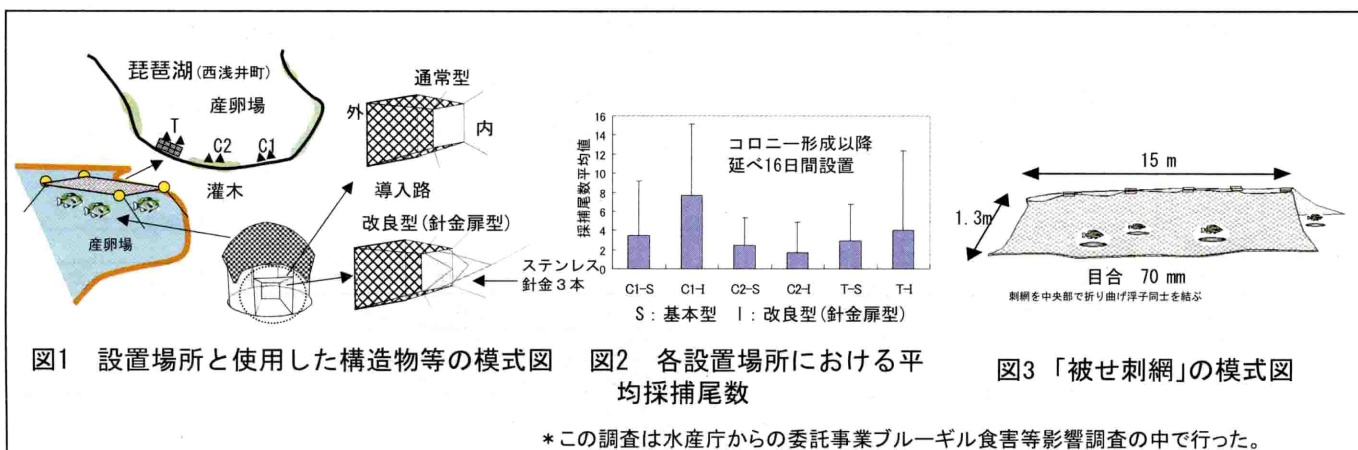
産卵期に沿岸部に集まるブルーギル親魚の効率的捕獲法の開発を目的として、構造物や刺網を用いた捕獲法の検討を行った。

## ◆成果の内容・特徴

- 水面を遮光する構造物によるブルーギルの誘引効果を確認するため、平成18年6～8月にブルーギルの産卵場となっている西浅井町地先の琵琶湖で、塩ビパイプと遮光シートを組み合わせて作成した2×4mの平面的な構造物を浮かせ、その前面に遮光型カゴ網(基本型と改良型)を設置し採捕を試みたが(T)、対照(C1、C2)と比較して効果は認められなかった(図1、2)。
- ブルーギルコロニー内の親魚の効率的な捕獲法を検討するため、「被せ刺網」(図3)を作成し、平成18年8月に西浅井町地先の琵琶湖において、ブルーギルコロニー上に設置(24時間設置を延べ4回)したところ、コロニー内の雄親魚に対して採捕された親魚と思われる成熟雄の個体数割合は62%であった。設置時に産卵床上の親魚は逃げるが、設置直後に巣に戻る過程でかかるものや、網目をすり抜けて産卵床上に戻るものもあった。

## ◆成果の活用・留意点

- 今回の遮光シートを用いた構造物設置ではブルーギルの誘引効果の確認はできなかったが、産卵場に集まるブルーギルをさらに集めて捕獲する方法はブルーギルの繁殖抑制の方法として重要であり今後も検討が必要である。
- 今回の被せ刺網は、平成14年度に試行した「囲い刺網」と同様にブルーギルコロニー内の親魚に対する効率的捕獲が期待できるもので、囲い刺網と比較して水草や沈んだ枝などの障害物が絡みにくい利点がある。



\*この調査は水産庁からの委託事業ブルーギル食害等影響調査の中で行った。